

平成 30 年度

第 1 回加東市総合教育会議 資料

加東市教育大綱における各施策の平成 29 年度の実施状況

施策名	1 子どもたちの「確かな学力」と「豊かな学び」	課名	学校教育課 こども教育課
-----	-------------------------	----	-----------------

【平成29年度取組・成果】

<確かな学力>

◆学力向上プロジェクト委員会

- ・大学教授等を講師として招聘し、全国学力・学習状況調査結果の分析をもとに、これまでの取組について検証した。指導のポイントがわかり、具体的な授業改善等につなげることができた。

<豊かな学び>

「子どもたちの発達段階に応じた人権教育の推進」

◆小中学校人権教育講演会

- ・平成25年度から市立全小中学校で実施し定着してきた。児童生徒が講師から人権について深く学ぶことができた。

◆人権教育スキルアップ講座

- ・経験年数15年未満の教員100名を対象として、平成29年度から3年かけて年3回の講座を実施。部落差別について考える良き機会となっている。

◆幼児期人権教育事業

- ・感性が発達する3～5歳児の幼児期における人権教育として、就学前教育・保育にあたる保育教諭等を対象とした指導者養成セミナー及び3～5歳児と保護者を対象とした親子セミナーを実施。親子セミナー受講者へのアンケートでは、高い満足度を得ている。(大変満足、まあ満足：98.9%)

<指導者養成セミナー>

開催日時	開催場所	参加人数
平成29年5月24日(水)	社福祉センター レクリエーション室	20人
平成29年5月30日(火)	社公民館 研修室	16人

<親子セミナー・出前親子セミナー>

開催日時	開催場所	参加組数
平成29年6月3日(土)	福田幼稚園	9組
平成29年6月15日(木)	社こども園	30組
平成29年10月12日(木)	米田こども園	39組
平成29年10月17日(火)	社幼稚園	61組
平成29年10月26日(木)	社児童館「やしろこどものいえ」	13組
平成29年11月21日(火)	南山活性化支援施設「Mina-kuru」	12組
平成29年11月29日(水)	滝野児童館(きらら)	6組

「ふるさと加東を愛する心の醸成」

◆ふるさと学習「かとう学」の副読本の作成

- ・加東市研究所員会で、所員が副読本に掲載する内容について協議した。上巻と下巻の内容を精選することができた。

「防災教育の充実」

◆避難訓練、引渡し訓練等の実施

- ・学校が保護者や地域と連携し、訓練等を計画的に行うことができた。

【課題・今後の取組】

- ★小学校6年時から中学校3年時にかけての学力の推移について調査し、中学校区ごとに改善策を検討する。 → 子どもたちのつまずきに対応するための教員の授業力向上
- ★「絶対人権感覚」に着目した事業を継続実施することで、「やさしさ」「思いやり」を身に着ける取組を推進する。
- ★「特別の教科」道徳の実施に伴い、道徳の授業のレベルアップを図ることが大切である。
→ 教員研修、道徳授業についての保護者アンケートの実施
- ★幼児期の発達特性を踏まえた人権教育を推進する必要がある。
- ★「かとう学」の副読本は、平成32年度完成を目指している。元研究所員と協議しながら、内容をより充実なものにしていく必要がある。 → ふるさと学習推進委員会の開催
- ★避難訓練等は、より実践的なものとなるよう工夫する必要がある。
→ 予告なしの避難訓練等の実施

施策名	2 小中一貫教育の推進	課名	学校教育課
<p>【平成29年度取組・成果】</p> <p>◆「教科カリキュラム」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科担当者会を中心として、4教科（国、算・数、社、理）のカリキュラムを作成した。 小中学校教員が指導のポイントを話し合い、系統的なカリキュラムが完成した。 <p>◆「小小連携」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東条東、東条西小学校において、小小連携を実施。 <ul style="list-style-type: none"> ※2年：開魂園で遊ぶ ※5年：自然学校のいかだ作り ※6年：坂本 遼の生家訪問など <p>◆「出前授業」（小中連携）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校教員が中学校へ行き、出前授業を行う。 			
<p>【課題・今後の取組】</p> <p>「教科カリキュラム」</p> <ul style="list-style-type: none"> ★4教科以外のカリキュラムを作成する必要がある。 <ul style="list-style-type: none"> → 音楽、図工・美術、体育・保健体育、図工・技術・家庭、特別活動 の5教科等について、平成30,31年度の2年間で完成 <p>「小小連携」</p> <ul style="list-style-type: none"> ★東条東、東条西小学校の小小連携をさらに深める必要がある。 <ul style="list-style-type: none"> → 5年自然学校での全活動における交流 <p>「出前授業」（小中連携）</p> <ul style="list-style-type: none"> ★小学校から中学校への出前授業を引き続き行う。東条地域は、中学校から小学校への出前授業も行う。 			

施策名	3 小中一貫校の整備方針	課名	小中一貫教育推進室
<p>【平成29年度取組・成果】</p> <p>◆小中一貫校の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度は、小中一貫校の整備方針に沿って、平成33年度開校予定の東条地域小中一貫校の整備事業に取り組んだ。 <p>① 用地の取得、移転補償業務に取り組み、すべての権利者と契約を締結し、権利移転を進めた。</p> <p>② 東条地域小中一貫校の設計業務に取り組み、建設にあたっての施設配置など事業の根幹となる基本設計を完成させた。</p> <p>なお、基本設計に関しては、開校準備委員会において平成28年度に当委員会で検討してきた5つの設計方針に沿った内容である。</p> <p>◆通学路の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通学路について、天神地区に小中一貫校を建設すること、また、スクールバスを運行することにより従来からの通学の形態、経路の変更が伴うため、開校準備委員会において、学校とPTAの協力を得て地区単位の徒歩通学路（案）の検討を行った。 <p>現時点において考えられる安全安心が確保できるルートの設定をした。</p>			
<p>【課題・今後の取組】</p> <p>★東条地域小中一貫校</p> <p>開校日を厳守する。</p> <p>→建設行為に遅延のないよう入札から竣工までの工程を精査していくことはもちろんのこと、開校に向けて校名、校歌、制服等の制定していくべき事柄をスケジュールに沿って遅滞なく決定していく。</p> <p>★社地域小中一貫校</p> <p>平成31年度に事業の立ち上げを行う。</p> <p>→東条地域の取り組みを踏まえて平成30年度から関係機関との調整を進めていく。</p>			

施策名	4 教育環境（学校施設）の充実	課名	教育総務課
<p>【平成29年度取組・成果】</p> <p>◆学校施設等の適切な維持管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫校の開校のスケジュールを考慮しながら、計画的に学校施設の修繕を行い、施設の適正な維持管理が行えた。 <p>実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・滝野東小学校体育館の外壁及び窓等の老朽化に対する工事を行うための実施設計を行った。 ・滝野南小学校のプールのろ過器の改修を行った。 ・東条中学校体育館の外壁改修工事を行った。 			
<p>【課題・今後の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ★今後も従前同様に安全・安心で快適な教育環境を維持して行く必要がある。 <ul style="list-style-type: none"> → 存続させる施設については、計画的かつ効率的な改修により長寿命化を図って行く。また、用途廃止する施設については、適切な活用方針を決定する。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ★大阪北部地震でブロック塀が倒壊した事例を受け、市内の学校施設のブロック塀を点検しました。その結果危険箇所には、子供が近づかないようにコーンを設置しました。また、既存のブロック塀について、撤去、補強、金網フェンス等への交換等を行うことで安全・安心を担保する。 			

施策名	5 英語教育の推進	課名	学校教育課
<p>【平成29年度取組・成果】</p> <p>◆「語学（英語）指導員派遣事業」 英語指導の資格をもった ALT5 名（本市直接雇用 3 名と民間業務委託 2 名）を小中学校に派遣することによって、中学生の英語力の向上、並びに小学校における外国語活動の充実を図っている。</p> <p>◆「かとう英語ライセンス制度」 中学校外国語授業での「かとう英語ライセンスブック」の活用や「かとう英語ライセンス検定」の実施などにより、身近な話題で日常会話ができる生徒の育成をめざしている。</p> <p>◆「実用英語技能検定（英検）」検定料助成 市立中学校に在籍する中学生を対象に、「英検」検定料を年 1 回全額助成し、外国語（英語）学習への意欲向上を図った。 ※英検受験者数 H28:44% → H29:50.9% ※英検 3 級以上相当の英語力を有すると思われる中学 3 年生 H28:39.9% → <u>H29:43.9%</u> ※H29：国・・・40.7%、県・・・36.4%</p> <p>◆「加東わくわく英語村」 長期休業中、児童生徒が、外国人講師を交えて All English でのさまざまな活動を通して、英会話を楽しむ場を設けた。 ※オリンピア市の学生との交流</p> <p>◆「教職員海外視察研修」 児童生徒が将来、国際社会で活躍できるようグローバル化に対応した教育のさらなる充実に向け、ICT 教育や外国語教育等に先進的に取り組む韓国の教育活動を視察し、本市の教育施策に反映させた。（キョンブク大学付設小学校、テグ市立グローバルステーション、テグ市立グローバルセンター、テグ教育大学） ※視察内容を踏まえた授業研究会の開催（12 月～）と報告会、報告書の作成</p>			
<p>【課題・今後の取組】</p> <p>★中学校卒業時には、臆することなく英語で日常会話ができる生徒をめざす。 → 英語に親しませ、児童生徒のコミュニケーション力の向上を図る。 ※かとう英語ライセンスブックの一部改訂など</p> <p>★2020 年度の小学校外国語活動、英語科導入に伴い、教員の指導力向上が急務である。 → 教員研修の実施</p> <p>★「教職員海外視察研修」で学んだ指導技術を、教員が実践の場で生かしていくことが大切である。 → 授業研究会の実施（研究所員会等）</p>			

施策名	6 食育の推進	課名	教育総務課 学校給食センター
<p>【平成29年度取組・成果】</p> <p>様々な家庭環境がある中で、食育推進専門員が中心となり、給食を「生きた教材」として活用しながら児童生徒の食事のとり方、望ましい食習慣を身につける取組を推し進めた。</p> <p>また、給食センターと学校及び関係機関との連携を強化し、地産地消の推進や伝統的な和食文化に対する正しい理解を深める取組、感謝の心を育む取組を推し進めた。</p> <p>◆ 食育推進の組織づくりと運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校食育推進委員会の開催 (年2回) →各学校の食育全体計画・年間指導計画が充実。学校・関係機関の連携が深まり食育が進んだ。 ・学校食育推進会議の開催 (年2回) →学校・保護者・関係機関・地域等との連携が進み、組織的な食育が一步進んだ。 ・学校食育担当者研修会 (年1回) →食育推進のP D C Aを学校に取り入れてもらいきっかけとなった。 <p>◆ 「児童生徒の給食等に関する観察質問紙調査」の実施と集約（年2回）</p> <p>→児童生徒の学校給食の摂取状況及び食生活の実態について把握することができた。今後の学校や家庭での食育の推進に役立つデータとなった。</p> <p>◆ 加東市食育推進校を中心とした食育研究活動の支援 平成28年度～平成30年度（東条東小学校・東条中学校）</p> <p>→組織的・計画的な食育を推進していくため、食育推進校を指定し、教職員用手引書（県教委）に基づいた実践研究の支援をするとともに、実践発表の機会をつくって市内の食育の充実を図れた。</p> <p>◆ 和食給食の推進と和食文化の普及</p> <p>「かとう和食の日」に合わせた和食給食提供日における食育活動支援</p> <p>1学期：6月7日（水）→各学校・園で「食育だより」等を活用した食育活動を実施。子どもたちの「食」への関心を高めさせ、発達段階に応じて「食」に関する適切な知識と「食」を選択する力の習得の機会となった。</p> <p>2学期：11月16日（木）→加東市健康課と連携した「かとう和食の日」とタイアップ、和食文化国民会議の援助による資料を活用するとともに、社高校生活科学科生徒、料理長（老舗料理旅館の</p>			

料理長を招いた)、地域の食材生産者、栄養教諭を学校・園に派遣し、食育活動の充実が図れた。

3学期：2月6日(火)→和食や食材の話、平成29年度加東市ケーブルテレビの協力を得て独自作成した食育教材DVD「たきのなす編」を活用した学習により、生産者と子どもがつながる食育活動となった。

◆ 食育教材DVD 「パクパク ニコニコだより」

(加東市産の野菜と給食1たきのなす編)の製作

→加東市ケーブルテレビ、JAみのりたきのなす部会、学校の協力を得て、15分の食育動画教材(DVD)を製作した。

各学校・幼稚園・図書館に配付し、食育活動の資料のひとつとして活用してもらった。動画教材は、インパクトが大きく、子どもの食材や生産者に対する関心を高めることができた。

【課題・今後の取組】

★食べ物を大切に子ども、食べることを大切に子どもの育成が課題であり、各学校での食育活動をより一層充実させていく必要がある。

→食育教材DVDの第2編を製作し、各学校や幼稚園・図書館に配付して子どもや保護者の「食材と健康への関心」を高める取組をする。

→発達段階に応じた食育研究実践を実践発表会等で広める。

→「朝食を食べることの大切さ」「栄養バランスの大切さ」等を「食育だより」で啓発する。

★食育における保護者やJAみのり等地域の生産者との協力体制を強化する必要がある。

→学校食育推進委員会や学校食育推進会議の運営方法を工夫し、食育推進の協力体制の強化を図る。

★地産地消の一層の推進。

→地域との連携による地産地消の取組を見直すことで、更に地元の食材の確保に努めていく。

「かとう夢プラン 楽しみのある学校給食特別メニュー」の新メニューを地産地消の視点から考案していく。

施策名	7 ICT機器を活用した教育の推進	課名	学校教育課 教育総務課
<p>【平成29年度取組・成果】</p> <p>◆「ICT教育研究推進事業」</p> <p>研究推進校を指定（東条西小、三草小）し、教育活動におけるICT機器の効果的な活用についての研究を進めた。</p> <p>◆ICTを活用した授業の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書や大型電子黒板を活用 ・教員の説明や児童生徒の発表等を補完し、学習内容の確かな理解を図った。 ・資料提示など児童生徒の興味関心の向上、プレゼンテーション力の向上 <p>※授業中にICTを活用して指導することができる教員の割合 H28：80.1% → H29：85.3% ※文部科学省の調査</p> <p>◆ICT教育環境の整備充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福田小、社中、東条中について、リース終了に伴いPC教室・職員室のPC及び周辺機器の更新を実施した。PC教室については、従来のデスクトップPCをタブレットPCへ改め、PC教室だけでなく、普通教室での活用や通常授業（各教科の授業）での活用が可能となる構成へ更新した。 			
<p>【課題・今後の取組】</p> <p>★児童生徒の興味関心を高め、主体的、対話的で深い学びの実現に向け、ICT活用を行う必要がある。 → 児童生徒に身に付けさせたい情報活用能力指標の完成。</p> <p style="padding-left: 40px;">※①情報を収集し整理する力 ②情報をもとに分かったことや考えたことを表現する力 ③情報を発信・伝達する力 ④ICT機器の操作</p> <p>★2020年度の小学校のプログラミング教育導入に伴い、教員の指導力向上を図る必要がある。 → 教員研修の実施。</p> <p>★文部科学省の方針ではおよそ3クラスに1クラス分程度の機器（タブレットPC等）整備を推奨しているが、加東市の現状では学校に1クラス分程度の整備状況となっており（6～7人に1台）、国の推奨する水準に達していない。 → 今後、児童・生徒用端末をさらに追加整備する必要がある。</p>			

施策名	8 国立大学法人兵庫教育大学との連携強化	課名	学校教育課 こども教育課 生涯学習課
-----	----------------------	----	--------------------------

【平成29年度取組・成果】

◆兵教大ボランティアステーションを通して学生を募集し、指導補助員として各校へ派遣した。児童生徒の学習等の支援を行うことができた。

- ・学習チューター（学校の教育活動支援）：延べ459人（2時間程度）
- ・自然学校（小学5年生の宿泊体験事業）：延べ165人
- ・加東スタディライフ（長期休業中の自主学習室）：延べ36人（2時間）
- ・適応教室（不登校児童生徒の学外教室）：延べ122人
- ・生涯学習事業（小学生チャレンジスクール、地域子ども教室等）：延べ74人

◆児童館等で「子育て支援講座」として、加東市・兵庫教育大学連携講座を3回開催した。

開催日時	開催場所	内 容	参加人数
平成29年8月27日(日)	社児童館	子ども科学あそび教室	35人
平成29年9月29日(金)	東条鯉こいランド	親子ふれあいあそび ～わらべうたを中心に～	29人
平成29年10月3日(火)	滝野児童館	講演：乳幼児期の教育において 大切にしたいこと	13人

◆兵庫教育大学子育て支援ルーム「かとうGENKi」に地域子育て支援拠点事業を委託し、地域子ども・子育て支援事業の充実を図った。

平成29年度 開館日数：143日

延べ来館者数：6,747人

【課題・今後の取組】

★兵庫教育大学生が実習等で忙しかったり、各事業への応募が減ったりして、人材確保が難しくなっている。

→ 兵教大ボランティアステーションや大学教授との連携の強化

★親子の交流機会を提供するとともに、子育て支援に関する情報提供や相談・助言等を行うことが重要となっている。

→ 市内4か所の地域子育て支援拠点の充実

施策名	9 インクルーシブ教育システムの確立	課名	発達サポートセンター
<p>【平成29年度取組・成果】</p> <p>◆総合的な相談体制の充実 保健師や教育相談支援員、心理士による相談や医師による診察及び心理士による発達検査を継続して実施し、より専門的で総合的な相談体制を構築し、その人らしく生活できるよう、それぞれの状態に応じて適切にサポートした。</p> <p>◆インクルーシブ教育の充実 発達サポートセンター「はぴあ」を平成29年6月に開設し、学校・園への巡回相談、専門家による教育相談等を実施し、合理的配慮等について指導や助言を行うとともに、子どもたちが過ごしやすい環境を整えた。さらに、支援が必要な子どもについてサポートファイルの作成を促し、関係機関が共通理解を得ることで、一貫した支援につなげた。</p> <p>◆早期療育の推進 関係部局などと密接に連携しながら、支援の必要な子どもの早期発見及び特性を理解した早期支援、集団生活等に必要な能力を身につけさせるための集団療育を実施し、適切かつ効果的な支援につなげた。</p> <p>◆研修・啓発の充実 保育士、教諭、介助員等対象の研修及び市民対象の講演会の実施により、合理的配慮等についての理解が深まった。加えて、何らかの支援が必要な子どもの保護者に対して、ペアレントトレーニングを実施し、親と子の良好な関係づくりを進めた。また、はぴあ紹介リーフレット等を関係機関へ配布し、啓発を図った。</p>			
<p>【課題・今後の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ★臨床心理士を配置し、成人の相談体制の充実を図る。 ★巡回相談、個別相談を通じて、学校園への支援の充実を図る。 ★未就園児に加え、就学後の児童に対する集団療育や個別療育の実施。 ★幅広く市民へ啓発強化を図り、研修参加を促し、より多くの市民が発達障害などに関する知識や理解を深め、適切な対応を学べるよう取り組む。 			